TOPICS

カナダから日本語放送

カナダ放送協会（CBC）の海外向け放送ラジオ・カナダ・インタナショナル（RCI）の日本語放送が、十一月から衛星中継により日本で放送されるようになった。

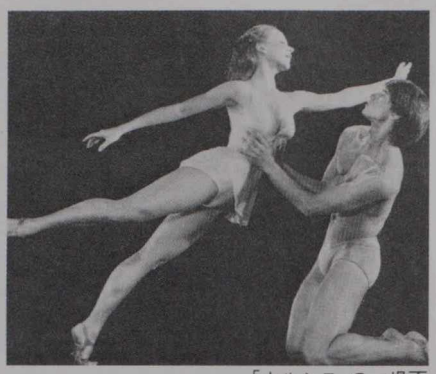
番組名は「カナダ・トゥデイ」。バンクーバーから衛星で送られてきたカナダ関係のニュースや話題、音楽を、ラジオ短波（日本短波放送）が毎土曜日午後六時から十五分間、第二放送で流しているもので、周波数は三九四五、六一一五、九七六〇メガヘルツの三つ。担当は重松彬氏。

受信等についての連絡先は、〒100-91東京都中央区私書箱八一六「ラジオ・カナダ・インタナショナル」

巨匠マクラレンが引退表明 名作「ナルシス」を最後に

「現代アニメ映画に革命をもたらした天才」――といわれたノーマン・マクラレンは、九月のモントリオール、トロント両映画祭で喝采を博した五十九番目の作品『ナルシス』を最後に、映画制作から引退すると発表した。

マクラレンは、一九四一年にスコットランドからカナダに移住して以来、カナダ映画制作庁で数々の斬新なアニメ映画を制作してきた。スローモーションや多重露光、手描き手法といった技法を駆使した作品は、世界中で高い評価を受け、『隣人』でハリウッドのアカデミー賞、『ブリンキティ・ブランク』で英国アカデミー賞とカンヌ映画祭のグランプリ金賞、『過去のつまらぬ気がかり』がベニス映画祭の一位入賞に輝いている。一九七五年には、故ウォルト・ディズニーとともに、国際アニメーション・フィルム協会からアニー賞を授与された。


「ナルシス」の一場面

最後の作品となった『ナルシス』は、ある若者が泉の水に映った自分の姿に恋してスイセンの花に化したというギリシャ神話をもとに、クリーブランド・バレエ団のジャン＝ルイ・モランとレ・グラン・バレエ・カナディアンのシルベイン・ラフォルチュンを主演にして、三年がかりで制作した。写真撮影で使われるタイム露出、ぼかし、コマ落とし、ストップ・モーションなどによって、きわめて幻想的な映画になっている。

来年ケベックで国際大型帆船祭 カルチエ来航四五〇周年を記念

一五三四年、フランスの探検家ジャック・カルチエが、二隻の船でサンマロ港を発ち、大西洋を横断してカナダ東岸のセントローレンス湾に到着した。

カナダの探検と開発を促したこの画期的航海から四百五十周年目を迎えて、ケベック市では来夏、数々の記念行事が予定されている。

まず世界各国の大型帆船の一大パレード。帆船はまずカルチエの故郷サンマロに集結、バミューダに向けて航海し、そこで南米諸国の帆船が合流する。それから北上して、アメリカの帆船を加え、ケベック市へ進む。いずれも名高いこれらの帆船は、六月二十五日から五日間、ケベック砦を見上げる川辺に停泊したあと、マストに優雅な帆をひるがえしながら再び大西洋へ向かう。この帆船レースには約五十隻の参加が見込まれている。第二は「チャレンジ・ラバット・レース」と呼ばれるヨットレース。これはトロントからセントローレンス川を通ってプリンス・エドワード・アイランド州シャーロットタウンまでの七区間、全長約六百キロを、カナダ各州の選抜チームが「C&C35」というヨットで競うもの。期間は六月二十三日から七月二十日まで。

さらに六月十八日から八月二十三日にかけて、ウインドサーフィンやディンギー（小ボート）、レーザー・ヨットなどの競走、また八月十一日からはケベック市からサンマロ港までの大西洋横断ボートレースも予定されている。

東西間の対話促進を トルドー首相が訴え

トルドー首相は、十月二十七日、オンタリオ州のゲルフ大学で開催された「核時代における平和と安全保障のための戦略会議」で、東西間の政治的対話を促す基調演説を行なった。

カナダ政府の特別作業グループは、トルドー首相の指示で、数か月にわたり東西関係の現状と改善の方法について詳細に検討してきた。同首相は、これに基いて、公式発言や個別首脳会談で世界情勢の緊張緩和を訴えることにしたが、ゲルフでの講演は、こうした一連の呼びかけの口火を切るもの。

トルドー首相

講演の中で、トルドー首相は東西間の政治的接触が危険なほどに薄れてきた要因や国際政治の構造に触れたあと、「下降線をたどる東西関係のすう勢を逆転させるため、前向きの政治的措置を講じなければならない」と訴えた。

具体的には、スピーチや主要諸国の首脳との会談で、東西間の信頼回復、軍備制限、関係改善のための政治的意志についてその重要性を説き、東西関係安定化のための政治的・経済的信頼を維持する機構をどう作っていくか、軍備競争に走る超大国をいかにして定期的・生産的対話に導くか、核保有諸国をいかにして戦略核兵器の国際的制限に向けた交渉につかせるか、核兵器の拡散をいかにして防止するか――などについて考えていくという。

ロボットが爆発物除去 米加で犯人逮捕にも一役

爆発物かもしれない路上の不審な袋を除去したり、人質を楯に抵抗する凶悪犯を捕えるのは、警官にとって命がけの任務である。

そこでカナダや米国で登場したのが、遠隔操作移動捜査器（RMI・3）――つまりこうした特殊任務を代行してくれるロボット。

舗道の段差でも上り下り自在のタイヤ、X線透視装置、爆発物の効力を失なわしめる強力な放水銃、消火器などがついて、無線で操縦するこのロボットは、オンタリオ州ペテスコ社の製品。すでに米加各地で約九十台が活躍中で、米ア